平成 25 年度スローガン『　Try　to　Run　』

たいよう

7月号

NPO静岡県青年団連絡協議会
広報紙 たいよう　第57巻-2号
平成25年7月31日発行
発行責任者　　草野　心路
編集・発行　　組織部
〒420-0068静岡市葵区田町1-70-1
TEL　054-254-2006
E-mail　kendan@youthnet.or.jp

暑さに負けず、第59回静岡県青年祭開幕

第 59 回静岡県青年祭は『伝える～自分らしさ 120%～』を大会テーマとして 7 月 20 日に盛大に開幕しました。今回の大会テーマは、『伝える、信じる、繋がるが持つ個々の力が合わさることで、青年祭がより魅力的になる。』と考え、『伝える』にスポットを当てたテーマとしました。青年祭は、一人ひとりの個性が輝く舞台です。その個性（自分らしさ）を最大限に発揮してきましょう。

7 月 20・21 日（土・日）の 2 日間で体育部門の各競技が無事終わり、男子バレーボール、男子バスケットボール、フットサル、ボウリングなど各競技の全国青年大会出場者が決定しました。

青年祭は今年も文化芸能部門及び交流種目の３部構成となっております。9 月 8 日（日）には袋井市のメロープラザで文化芸能部門を、9 月 22 日（日）には交流種目として運動会を島田市陸上競技場で開催します。また、9 月 7 日（土）にはメロープラザでリハーサルを行った後、大交流会を開催しますので、青年祭は更に盛り上がります。運営協力を始め、一人ひとりが今できることに全力で取り組み、みんなが輝ける青年祭を一緒に作っていきませんか。皆さんの“自分らしさ”を出していくのは今です。

第 59 回静岡県青年祭大会委員長
中本将之

フットサル　F.C.K.B(黄)

バスケットボール　VERKY(緑)

初秋に開催！いわて復興スタディツアー

未曽有の被害をもたらした東日本大震災から 2 年半が経とうとしています。これまで多くの募金が集まり、政府の支援や数多くのボランティアの協力もありましたが、復興はあまり進んでいないと聞きます。また、日常の生活に追われ、少しずつ震災のことが薄らいでいる人も多いのではないでしょうか。この大震災を過去の災害として終わらせるのではなく、震災の記憶と傷跡が残る被災地を訪れ、震災の現場を自分の肌で感じることで、これから私たちが生きていく上で大切にしなければいけないことや必要なことを改めて考える時間としていくことが、今こそ必要であると感じています。

静岡県は長い間、東海地震がいつ起こるか分からないと言われ続けています。しかしながら、言われ続けているが故に、言われ慣れている部分もあり、震災への意識が低くなっている部分もあるのではないかと感じます。震災に対する意識を高めるためにも、現地へ赴くことが何より大切です。

このスタディツアーを通して、自分の住んでいる地域や故郷、家族や友人のことなどを改めて見つめてみませんか。また、被災地に訪れることが復興の一助にもなると信じています。

これからの自分について、地域や社会について一緒に考えてみましょう。

会長　草野心路

静岡（青年球技交流会）

6 月 15 日(日)に「青年球技交流会」を静岡英和学院大学体育館で参加者 27 名と共に盛大に開催しました。

今回は、球技を通じて、参加者一人ひとりが様々な人と交流してもらうことを目的として開催しました。また、青年団を知らない人には、事業を通して青年団を知ってもらうきっかけになれば良いと思い企画しました。

参加者が勝ち負けにこだわらず、全員が楽しめる種目として、ソフトバレーボールを行いました。

ソフトバレーボールは過去にも実施しており、その際は事前にチームを決めていましたが、今回は新たな試みとして、くじ引きにより当日チームを決める方法を取り入れ、知らない人との交流がしやすくなるように工夫しました。

当日、初対面の人や話しの苦手な人は、中々打ち解けられず、緊張が見られましたが、試合が進むにつれて、チーム内での会話が増え、試合中の良いプレーにはハイタッチ、上手くいかなかったときはお互いに声を掛け合うなど、少しずつチーム内での絆が生まれ、大会が終わる頃にはすっかり仲の良い仲間に変わりました。

事業が終わった後、参加者からは「シャッフルメンバーでの大会は楽しかった」、「また次も参加したい」と言う声を次の事業に繋げていきたいです。

今後も青年同士が気軽に交流できる事業を作っていきたいです。

静岡市青年団連絡協議会　副会長　斉藤伊織

島田（バンブークッキング）

8 月 4 日（日）に第二回目の青年ボランティア講座『シマイク』を開催します。『シマイク』とは、高校生から青年層に地域活動を身近に感じてもらうため、島田市社会教育課と協力して開いている講座です。また、今回は、金谷公民館主催の園児から中学生を対象とした体験講座の『元気キッズ』も交えて、童子沢親水公園で行ないます。

バンブークッキングは、主に竹を使って野外料理体験をします。ご飯を炊く筒を始め、串焼き用の串や食事用の皿など、竹を加工して様々な備品を自分たちで作ります。

シマイク参加者には、子どもたちに教えながら作る体験をしてもらうことで、地域活動に慣れ親しんでもらいたいです。また、元気キッズ参加者には、炎天下の野外活動を楽しく体験することで、暑さに負けない元気な子どもに成長して欲しいです。

島田市青年サークル　会長　藤井隆一

世界文化遺産と青年団

先日、富士山が世界文化遺産に登録されました。静岡の名所が世界文化遺産になるのは初めてのことです。選定期間中には『三保の松原』は世界文化遺産に登録されない方向でしたが、『三保の松原』も世界文化遺産に登録されました。その『三保の松原』は、実は青年団ととてもゆかりの深い場所です。

今をさかのぼること約 100 年前に近代青年団を創ったといわれる青年団の父『田澤義鋪』は「青年は青年によって磨かれる」と唱え、話し合いの大切さを伝えていきました。それを実践したのは 1914 年 8 月 8 日、三保の松原付近の海岸で開催された“天幕講習”でした。テントを張って行われる天幕講習は、20 代の青年が同じ寝床で同じ釜の飯を食べ共同生活を通じ語り合います。その様子は、今の青年問題研究集会の礎となっています。

田沢義鋪の「青年は青年によって磨かれる」という精神は、100 年経っても変わらないことを三保の松原で実証していたのですね。

組織部

編集後記

今月号はトップに青年祭結果と新事業の告知を載せ、裏面には静岡と島田の事業の様子を紹介していただきました。また、青年団のゆかりの地である三保の松原の話は、大変面白い内容だと思いますので、これを機に、皆さんも『田澤義鋪』にまつわる書物を読んでみてはいかがでしょうか。